

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本専攻修士課程では、本学の定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者には、修士（文学）の学位を授与します。</p>			<p>本専攻修士課程ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p>	<p>本専攻修士課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	日本の言語・文学・文化に関する専門的な知識を修得している。	<p>1. 本専攻では、日本語学研究、日本文学研究、国語科教育研究、日本語教育研究の4つの分野からなる教育課程を編成し、自己のキャリアプランに則した科目群を選択履修することができます。それぞれの分野の講義科目と演習科目を有機的に組み合わせ、能動的に学修し、高度な専門性を有する職業人や社会において指導的な役割を担う研究者を育成することを目指しています。</p> <p>2. 「国語」の教員免許（一種）を有する者が必要な科目を履修し、その単位を修得すれば、「国語」の専任教員免許が取得できます。</p> <p>3. 学生個々の指導教員は、入学時の面接を経て決定します。指導教員は、「特別演習Ⅰ」「特別演習Ⅱ」（いずれも必修科目）において、その学生の研究課題の決定、研究計画の作成から修士論文の作成に至るまでの指導を行います。</p> <p>4. 各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、あらかじめ評価指標を明示し、適切・公正な評価を実施します。また、修士論文をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>学部教育の基礎的教養に磨きをかけて、高度な専門性をもって社会で活躍できる職業人を育成することを目標とし、日本語・日本文学に関するいっそう深い専門的研究、国語科教育の実践的研究、日本語教育についての幅広い実践的研究を目指そうとする者を受け入れます。</p>
	1-2	人文・社会・自然に関する広範な知識を体系的に整理・理解し、日本語・日本文学の諸問題をその知識体系において把握している。		
	1-3	体系的知識を複数の異なる視点・国際的観点から把握し、現象を多様な価値観の下に捉えている。		
2. 技能・表現	2-1	大学院における学修を自らの知性・感性・徳性の涵養と言語能力を基礎とするプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上に役立たせることができる。		
	2-2	大学院における学修の成果を、学会等を含む社会での諸活動に具体的に活用できる。		
3. 思考・判断	3-1	日本語・日本文学に関して身に付けた専門的知識を捉えなおし、批判的に考察する能力を身に付けている。		
	3-2	日本語・日本文学の学習に基づく知性と感性によって、論理的・実証的に思考する能力および状況判断・問題解決の能力を備えている。		
4. 態度・志向性	4-1	日常生活の中で大学院での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保ち続けている。		
	4-2	広範で体系的な知識、豊かな感性、しっかりとした倫理観に基づき、家庭・事業体・地域社会・国際社会において自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意思を持っている。		